答志島の漂着ごみ問題

伊勢湾口に浮かぶ答志島に、ごみが流れ着く。それも集中して漂着する。今に始まったことではない。大雨が降ったり、台風が来たりすると、浜を埋め尽くしてしまう。

ペットボトルや樹脂製の生活にかかわるごみ、河原に生えるヨシなどの雑草や木の枝、幹、根っこまである。こんなごみが流れ着くのは答志島だけではないが、その量が違う。三重県や環境省が２００９、２０１０年に調べた、同県側の伊勢湾沿岸１４海岸に流れ着いたごみは８７㌧にのぼり、うち２１㌧が答志島北側の伊勢湾に面した「奈佐の浜」に集中した。三重、愛知、岐阜県から出たごみで、湾内の流れのせいとみられる。

漁港に流れ着くと出漁できないので、漁民らが撤去してきた。県から一部補助はあるそうだが、地元の負担は小さくない。長いと１週間も清掃に明け暮れ、台風に伴う豪雨災害のあった□年度は桃取地区だけで撤去に１３６０万円を要したこともある。この問題を広域でとらえ、三重、愛知、岐阜県と名古屋市で取り組もうという動きが出てきた。３月□日、三重県が名古屋市内で「伊勢湾の海岸漂着ごみを流域のみんなで考える会議」と題したシンポジウムを開く。

漂着ごみ問題は１月１６日、名古屋市で開かれた「３県１市知事・市長会議」で、三重県の鈴木英敬知事から出された。「ごみの発生を抑えるため、連携を強めたい」との提案で、他の県市とも応じ、既存の組織を活用して連携することを申し合わせた。既存組織といえば、伊勢湾総合対策協議会、伊勢湾再生推進会議などを思いつくが、具体的にどう進めていくかはこれからだ。

ようやくというか、やっとという感じもなくはないが、取り組みが始まったのは、結構なことではある。かけ声倒れに終わらないことを望みたい。

市民レベルの動きもあった。１月２９日、三重、愛知、岐阜県の市民団体が愛知県清須市で「ゴミと水を考える集い」を開き、東海３県から海に出たごみが大量に流れ着く答志島で合同清掃することを決めた、と新聞が伝えていた。今春にも実施される予定で、市民団体が集まって漂着ごみ問題を話し合うのは初めてともされ、関心が高まるのを歓迎したい。

山積する課題、山は？

が、心配な点も少なくない。

ごみが大量漂着した際、その都度、市民団体に撤去をお願いするという訳にはいくまい。撤去のための体制、費用は大きな問題だ。流れ着いた当該自治体が負担するのではなく、広く分かち合うことにする場合、どこが、どれだけ、どう負担し合うのだろう。

流れ着いたごみが、どこから出たかの判別は難しい。ラベルに所在地や店名などが書いてあれば推定はできるが、それとてごみを捨てた原因者かどうかの特定は難しいから、量に従って負担し合うのは無理だろう。となると、基金を出し合って、撤去費用に充てるよ

うにすることも考えられるが、それなら基金の負担割合をどうするのか、人口割か、などなど、疑問が次々浮かび上がる。

流木ひとつをとっても、背後に控える課題、問題は大きい。そもそも、木が流れ出るのはなぜか――。

山が荒れているせいで、とりわけスギ、ヒノキなどを植えた人工林で顕著だ。雨で表土が流され、簡単に地滑りしないよう、山をきちんと手入れする必要性はかねてから指摘されているが、その整備が進んでいない。長年、国産材の単価が低迷しているため、「間伐」と呼ばれる木を間引く作業が滞っている。

きちんと間伐された人工林が伊勢湾流域にどれくらいあるだろう。間伐が必要な面積の一部でしかないのではないだろうか。木材単価の低迷により、山から運び出すための搬出経費さえままならないそうだから、山主は結局、間伐をあきらめてしまう。間伐されても、切った木をその場に捨てる「切り捨て」が大半だ。この方法を「最低のやり方」と批判する専門家もいて、「５～１０年後に間伐するときの妨げになる。メタンの発生源になり、温暖化を進める懸念もある」との指摘もある。大雨で川、海に流される一因にもなる。

間伐をしないと、ひょろひょろの木が山を覆ってしまう。木が密生し、樹上は枝が絡まるほど込み合っている。日中でも日光が地面に届かないため、草が生えず、低木も育たない。日がさしていてもなお暗く、地面はむき出しだ。鉛筆のような木は、台風で強い風に吹かれたら簡単に倒れてしまう。少しの雨で、すぐ泥濁りの水も出る。

長い間、放置されてきた山が、そう簡単に整備されるとは思えない。しかし、昨今、漁業者が山へ木を植えるようになった。流域の人たちも漂着ごみのことを心配してくれるようになった。互いを理解し、助け合う。この問題を機に、そんな関係を築けたらと思う。

愛知県では０９年から森林環境税を導入し、岐阜県も今春から実施するという。全国の３１県ですでに導入されているが、三重県では今年１月３１日に「森林づくりに関する税検討委員会」が開かれたばかり。三重県では４年前、別の委員会が森林税導入を是とする報告書が知事に提出されたが、リーマンショックによる景気悪化を理由に先送りされてきた経緯がある。三重の鈴木知事は「今年前半に結論を得たい」としており、東海３県で早く足並みをそろえて欲しい。

この税が、ごみ対策にまで使えるのかどうかは、知らない。しかし、これを機に広く森林への理解が深まり、ごみ問題にまで関心が広がっていくことを期待したい。